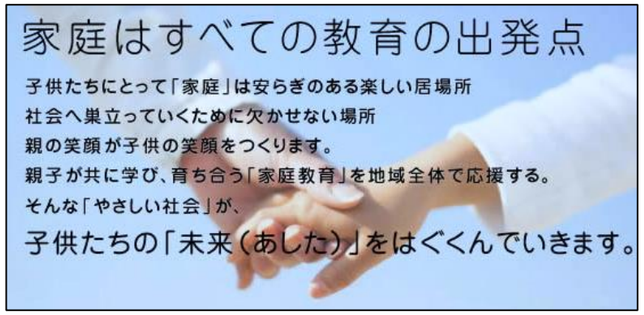
学力向上対策室だより

～ I'm home. ～

R7
12月

「I’m home.」＝「私は家です。」と訳した人、いませんか！？
No！No！No！違いますよ！！「I’m home.」＝「ただいま」です。
「home」は、物理的な建物としての「house」と違い、「帰る場所」「家庭」「安らぎの場」といった、心理的つながりや安心感を含む場所をさします。「帰～ろうか～♪」と流れてきそうですね。今回は「家庭」という視点の内容をお伝えします。



上記画像は、文部科学省ウェブサイトより

「おはよう」「おやすみ」
「いってきます」「ただいま」
「いってらっしゃい」「おかえり」
「いただきます」「ごちそうさま」
なにげない毎日のあいさつや会話も大切にしたいでござるね。

子どもの教育

学校では、教科書などでの勉強はもちろん、豊かな心や健やかな体など、子どもたちの『生きる力』を育みます。失敗や挑戦、友だちとの日々を通して、『心の根っこ』を大きく育てています。それはもちろん、学校だけではありません。家庭も、地域も子どもを育てる場ですよね。

今、社会では「家庭教育の大切さ」が伝えられています。下の文章は、文部科学省のウェブサイトから引用したものです。

子どもの教育の第一義的責任は親が持つものであり、尊重されなければなりません。
しかしながら、子どもは家庭の中だけで育つわけではありません。学校や地域の様々な人たちと関わり、見守られながら成長していきます。
かつては、親以外にも多くの大人が子どもに接することで、それらが全体として家庭教育を担ったり、親同士や地域の人々とのつながりによって、親として学び、育ち合う中で、子どもたちを「地域の子ども」として見守り、育てるなど、地域において子育てや家庭教育を支えるしくみや環境がありました。
昨今では、都市化や核家族化、少子化、雇用環境の変化などにより、こうした地縁的なつながりや人との関係が希薄化し、親が身近な人から子育ての仕方を学ぶ機会が減ったり、子育ての悩みなど気軽に相談できる人がそばにいないといったような、親や家庭を取り巻く状況、子育てを支える環境も大きく変化しています。
また、仕事と子育ての両立の難しさなど、様々な要因を背景として、家庭の孤立化や、忙しくて時間的精神的ゆとりを持てない状況、さらには児童虐待など、家庭をめぐる問題も深刻化してきています。
こうした状況は、決して個々の家庭だけの問題ではありません。
保護者の皆さんが安心して子育てや家庭教育ができるよう、改めて、家庭教育の大切さを社会全体で考え、支援していくことが大切です。

スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)がいます

左のページで引用した文部科学省の文章のタイトルには、「**家庭の教育は個々の家庭の責任、他人には頼れない、関係ない、と思ってしまっていませんか。**」と書かれています。このたよりを読んでいただいている保護者のみなさん、地域のみなさんはどうですか？抱え込んでしまっていませんか？

泉南市の各小中学校には、スクールカウンセラー（SC）とスクールソーシャルワーカー（SSW）がいます。お子様のことで悩んだ時には、学校の先生を通じ、SC・SSW につながるのも１つの方法ですよ。

安心・安全・探索の基地

子どもたちの感情を育む土台となる「愛着」には、3 つの基地機能が備わっていると、和歌山大学教育学部　米澤好史教授は言います。以下、米澤教授の著書「こどもへの接し方に悩んだら読む本」をもとに、紙面の都合上、一部抜粋・編集して記載します。

★一緒にいるとほっとする安心感「安心基地」
とくに不安や心配などがないときでも、「一緒にいると心地がいいな」という安心感を得られる基地。普段から、この人のそばにいると「ほっとするな」「落ち着くな」「なんだか幸せだな」というように、ポジティブな気持ちよさを感じさせてくれる存在としての機能ですから「会いたい」「いつも一緒にいたい」という気持ちも生まれる、愛着形成におけるいちばん最初の基地機能です。

★必ず守ってくれる信頼感「安全基地」
自分が何か嫌な気持ちになっても、「この人が必ず守ってくれる／自分は守られている」という信頼感です。「こわい、どうしよう」という恐怖や不安、怒りや悲しみのような強いネガティブな感情に襲われたときにも、嫌な気持ちから必ず守ってくれる。そうした存在として機能するのが安全基地です。

★ひとりで探検できる自立心「探索基地」
こどもたちが安心基地や安全基地から離れ、ひとりで新たな関係を結んでいくための精神的自立の基盤となる基地です。

「安心基地」や「安全基地」は、その基地を担う人と一緒に過ごすことで確認する機能で、「この人と一緒にいると心地いい」「この人が必ず守ってくれる」という存在ですが、それに対して「探索基地」は、居心地のいい基地からいったん離れ、また基地に戻ってくるという動線のなかで確認される機能です。こどもたちは、特定の人のもとを離れてひとりで探検し、また戻ってきてエネルギーチャージすることで、つぎの探検へと出かけます。

このような内容を知ると、子どもたちを見守る目にも新たな視点が生まれてきますね。そして、「この 3 つの基地を担える人は、親や家族だけとは限らない、学校の先生でも、地域の方でも、誰にでも、いつから始めても可能」と米澤教授は言います。家庭で、学校で、地域で、様々な大人が子どもの 3 つの基地になっていきましょう。

泉南市教育委員会　教育部　学力向上対策室
〒590-0505 大阪府泉南市信達大苗代 374-4
TEL：072（483）3673

花笑み sennan